

6月 Before / After教材

Sample1: 海辺の神事

切り撮り方を整えると、
何を見せたい写真なのかが見えてくる

① 作品のGoalを知る

② 技術でGoalに近づく

前半1時間で見える教材サンプル



1. Before：元写真を見る

まずは「何が写っているか」「どこに視線が向くか」を観察します



観察ポイント

- 主役：神事の列・赤傘・読上げる人
- 視線：手前の人物頭や奥の人物にも散る
- 印象：場の雰囲気は伝わるが、主題が少し埋もれる
- 課題：切り撮り方と不要物整理で主題を明確にしたい

Beforeは「失敗」ではありません
作品のGoalを考えるための出発点です

2. After：作品風に整えた写真

手前の不要物を外し、赤い傘と神事の関係が伝わるようにします



Afterで強まった印象

- 下側を整理し、手前の人物頭を外した
- 奥の人物を削除し、読み上げる人物を見やすくした
- 赤い傘の筋が見え、象徴性が強まった
- 空と山の色が濃くなり、雲の白さも出た

正解は一つではありません。
これは「作品化の方向」の一例です

3. 編集ポイントと理由

何を変えたかではなく、「なぜそう整えるのか」を見ます

編集ポイント

- 1 トリミング：下側を削り、手前の人物頭を外す
- 2 不要物を削除：奥の人物を消して視線を整える
- 3 左の観客を整理：場の説明として残しつつ主役を邪魔しない
- 4 赤い傘を強調：傘の筋が見えるようにコントラストをつける
- 5 空・山・雲を整える：色を濃くし、雲を白くする

Goal :

「海辺の神事の厳かな一瞬」を伝える



Before



After

4. 作品タイトル案

タイトルは、写真の内容だけでなく「感じてほしいこと」を短く表します



候補

第一候補

赤傘の祈り

候補2

海辺の神事

候補3

潮風の祝詞

候補4

浜辺に響く祈り

おすすめは「赤傘の祈り」
赤い傘と神事の厳かな空気が素直に伝わります

5. キャプション案

キャプションは、写真に込めた思いを短い文章で補います



キャプション例

海を背に、白装束の列が深く頭を垂れる。

赤い傘の下で読み上げられる言葉が、潮風の中に静かに広がっていく。

講座で伝えたいこと

- 切り撮り方で、写真の主役ははっきりする
- 不要なものを削除すると、視線が整う
- 6月はこのGoalを見たうえで、後半に基本操作7～14を学ぶ

6月 Before / After教材

Sample2: 大凧祭り

祭りの記録写真から、
祭りの熱気を伝える作品へ

① 作品のGoalを知る

② 技術でGoalに近づく

前半1時間で見える教材サンプル



1. Before：元写真を見る

まずは「何が写っているか」「どこに視線が向くか」を観察します



観察ポイント

- 主役候補：大団圓と、引く人たち
- 視線：大きな文字と人の群れに分かれる
- 印象：祭りの大きさは伝わるが、記録写真に見える
- 課題：人の表情・動き・熱気をもっと前面に出したい

Beforeは「失敗」ではありません。
作品のGoalを考えるための出発点です。

2. After：作品風に整えた写真

走る人たちを主役にし、祭りの熱気が伝わるようにします



Afterで強まった印象

- 人物の表情としぐさが見えやすくなった
- 砂埃で動きと迫力が出た
- 背景の大風を少しぼかし、人を主役にした
- 縦構図で群衆の勢いが強まった

正解は一つではありません。
これは「作品化の方向」の一例です。

3. 編集ポイントと理由

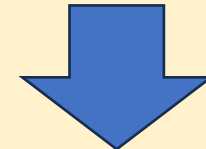
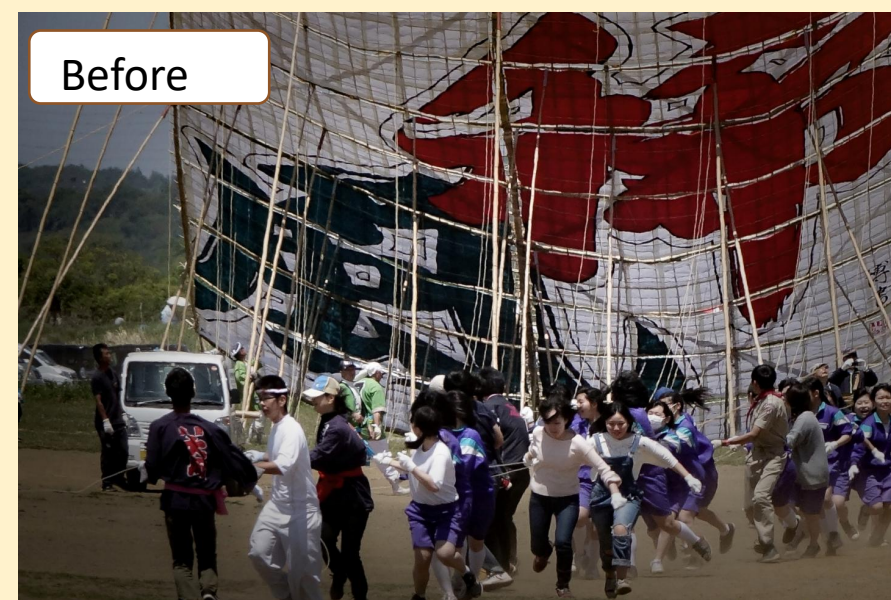
何を変えたかではなく、「なぜそう整えるのか」を見ます

編集ポイント

- 1 人を主役に切り出す：
表情と動きを見せる
- 2 背景の大凧を整理する：
少し縮小し、文字をぼかして人を主役にする
- 3 砂埃を加える：
足元の勢いと祭りの熱気を出す
- 4 人物表現を整える：
右側の男性の顔も含め、視線が人に向くようにする
- 5 Windows標準アプリでは難しい編集も、
ChatGPTなら簡単に試せる

Goal :
「大凧を動かす人たちの熱気」を伝える

Before



After



4. 作品タイトル案

タイトルは、写真の内容だけでなく「感じてほしいこと」を短く表します



候補

- 第一候補 大風を曳く力
- 候補2 走る熱気
- 候補3 風をつかむ人たち
- 候補4 祭りの躍動

おすすめは「大風を曳く力」
人の動きと祭りの迫力が素直に伝わります

5. キャプション案

キャプションは、写真に込めた思いを短い文章で補います



キャプション例

大風を支えるのは、空に向かう布だけではない。

綱を握り、砂埃の中を駆ける人たちの表情と足音が、祭りの熱気を立ち上げている

講座で伝えたいこと

- トリミングで、写真の主役は変えられる
- 背景を少し抑えると、人の表情と動きが引き立つ
- 6月はこのGoalを見たうえで、後半に基本操作7～14を学ぶ

6月 Before / After教材

Sample 3 | ジェットスキー

記録写真から、
水しぶきとスピード感を伝える作品へ

① 作品のGoalを知る

② 技術でGoalに近づく

前半1時間で見える教材サンプル



1. Before：元写真を見る

まずは「何が写っているか」「どこに視線が向くか」を観察します



観察ポイント

- 主役：ジェットスキーと跳ね上がる水しぶき
- 視線：白いしぶきに引かれるが、全体はやや暗め
- 印象：動きはあるが、記録写真寄りに見える
- 課題：主役の存在感と海の迫力をもっと強めたい

Beforeは「失敗」ではありません
作品のGoalを考えるための出発点です

2. After：作品風に整えた写真

海の青と白いしぶきを際立たせ、スピード感と迫力が伝わるようにします



Afterで強まった印象

- 海の青が深くなり、画面全体が引き締まった
- 水しぶきの白が際立ち、勢いが強まった
- 機体とライダーの存在感がくっきり立った
- 「海を切る一瞬の迫力」が作品として伝わる

正解は一つではありません。
これは「作品化の方向」の一例です

3. 編集ポイントと理由

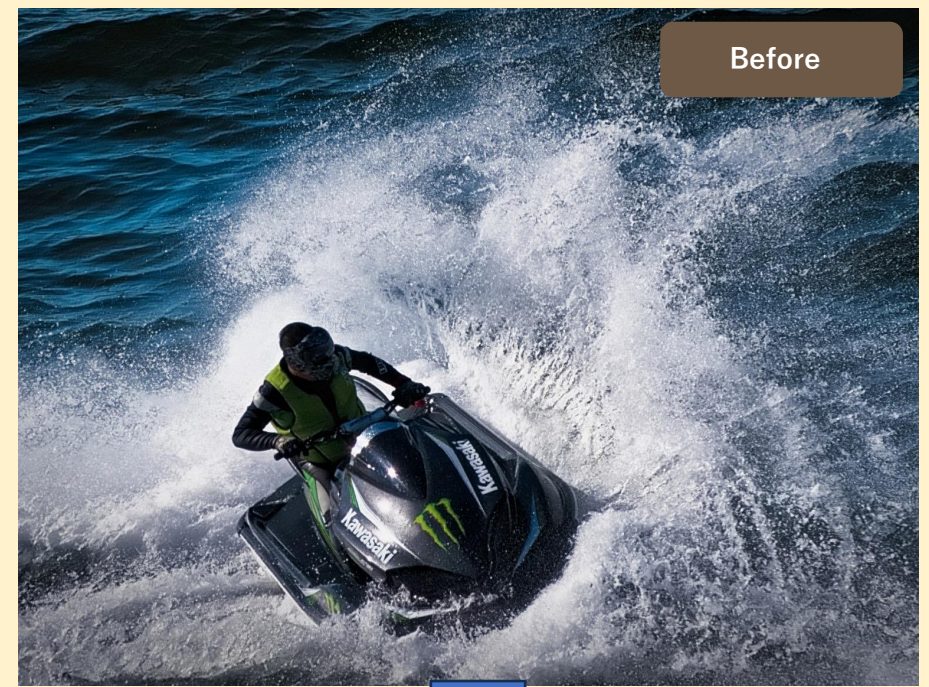
何を変えたかではなく、「なぜそう整えるのか」を見ます

編集ポイント

- 1 海の青を深める：爽快感と力強さを出す
- 2 白いしぶきを際立たせる：動きと瞬間性を強める
- 3 主役を引き締める：機体とライダーの存在感を上げる
- 4 明暗を整理する：作品らしい緊張感を出す
- 5 周辺を少し落とす：主役へ視線を集める

Goal :

「海を切る一瞬の迫力」を伝える



4. 作品タイトル案

タイトルは、写真の内容だけでなく「感じてほしいこと」を短く表します



候補

第一候補

波を裂く

候補2

水しぶきの旋回

候補3

蒼の疾走

候補4

一瞬の切り返し

おすすめは「波を裂く」
短く力強く、動きの鋭さが素直に伝わります

5. キャプション案

キャプションは、写真に込めた思いを短い文章で補います



キャプション例

深い青の海を切り裂くように、ジェットスキーが大きな水しぶきを上げて旋回する。

色と明暗を整えることで、一瞬の速さと衝撃が作品として立ち上がる。

講座で伝えたいこと

- 色と明暗で、海の印象は大きく変わる
- 白いしぶきを際立たせると、動きの迫力が増す
- 6月はこのGoalを見たうえで、後半に基本操作7～14を学ぶ